

トラック輸送情報（平成15年 9月分）

平成15年11月28日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：金子、荒木 内線28-315

直通 03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

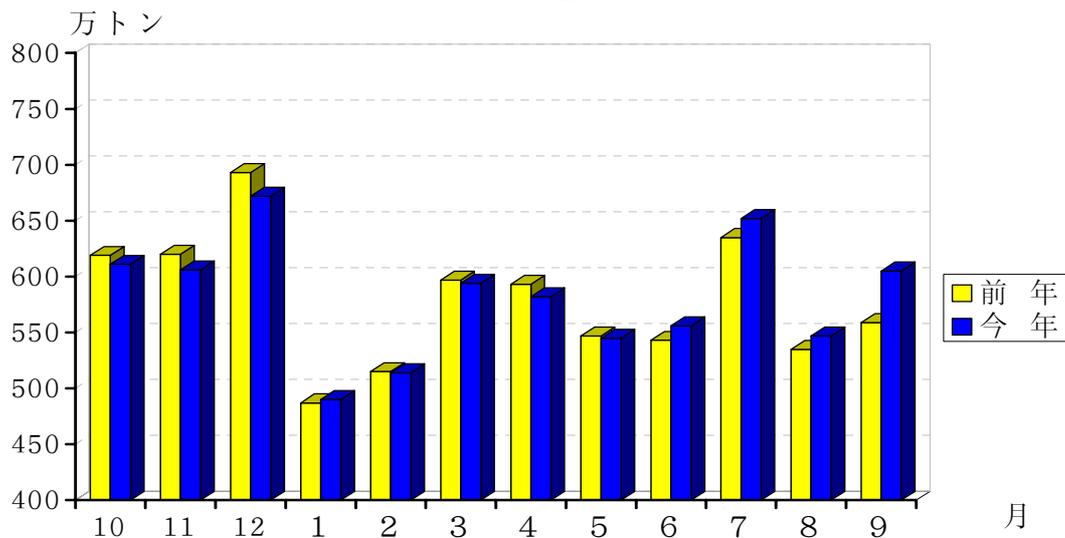
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の輸送状況

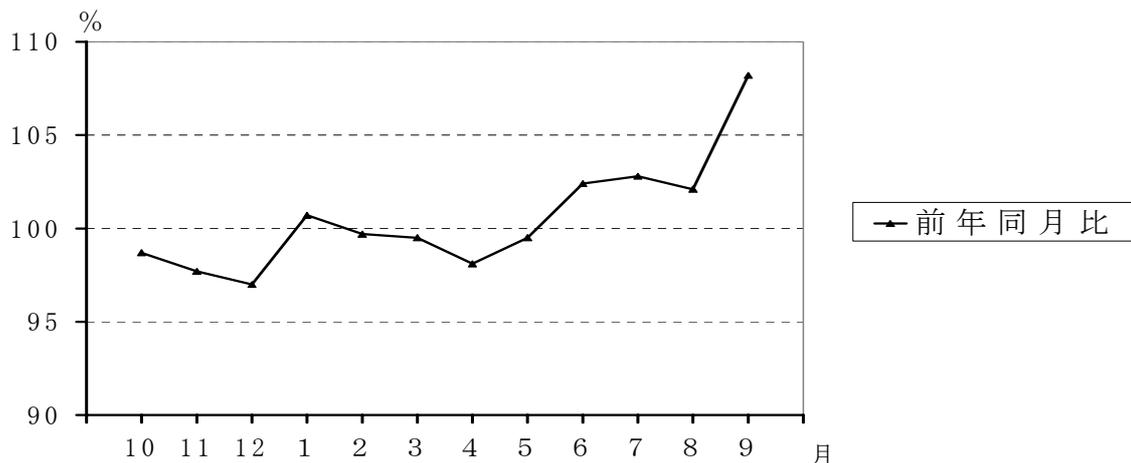
調査対象26社の本月の輸送量は6,051,567トンで、前月と比べ、総輸送量が約58万トン増加したため、前月比110.6%（季節調整済み103.3%）、前年同月と比べると、約46万トン増加したため、前年同月比108.2%の実績であった。

なお、平均稼働日数は、23.6日で、前月と比べ、0.8日の増加、前年同月と比べると、0.7日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、256,422トンで、前月と比べ、約1.7万トン増加したため、前月比106.9%、前年同月と比べると、約1.2万トン増加したため、前年同月比105.0%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



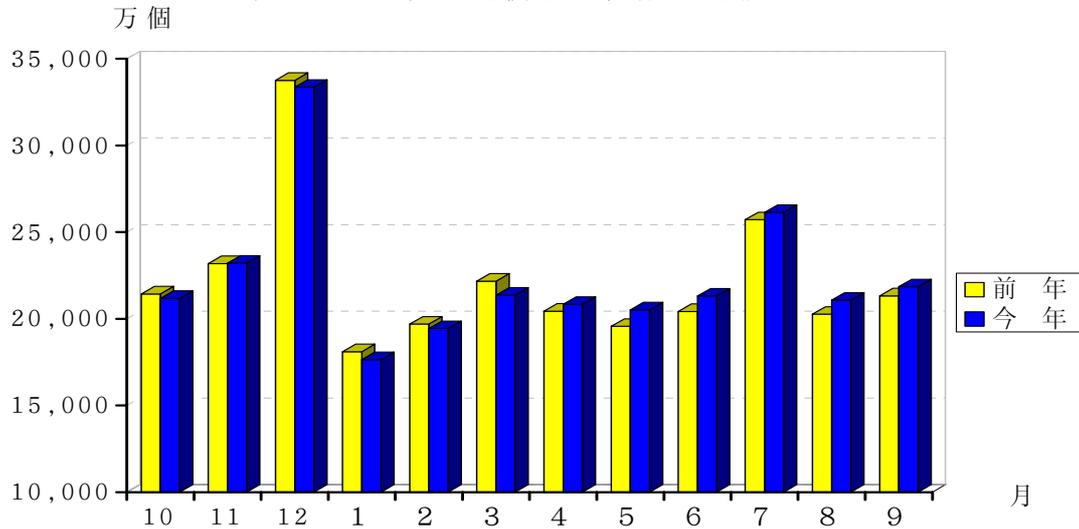
（図1-2）26社の輸送トン数の前年同月比



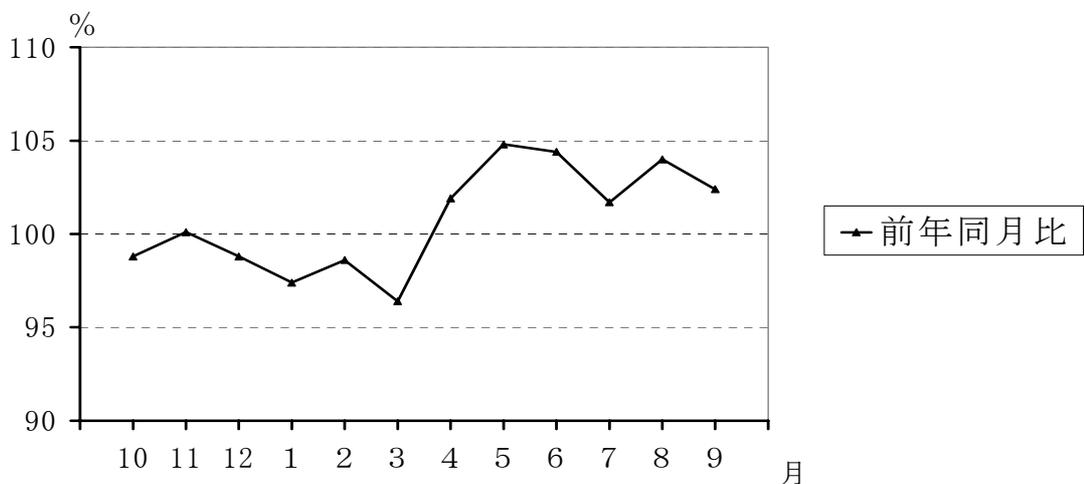
(2) 宅配便の輸送状況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、218,520千個で、前月と比べ、約782万個増加したため、前月比103.7%（季節調整済み105.1%）、前年同月と比べると、約522万個増加したため、前年同月比102.4%の実績であった。（図2-1、図2-2参照）

（図2-1）宅配便取扱個数の推移



（図2-2）宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、前月と比べ、中間決算期を迎え、ほぼ全ての品目において増加傾向にあった。中でも、日用品が全国において、工場・生産地、商社・問屋及び倉庫から出る貨物増、季節的需要増を主な理由として増加している。

前年同月と比べると、顕著な増減傾向は見られなかった。しかし、わずかながら、日用品が関東、北陸信越において、工場・生産地、商社・問屋からの貨物増、景気の好況を主な理由として増加している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因	
	著増	増	変らず	著減				
前 月 に 比 べ て	農水産品		4	9	4	農産品、水産品、青果物	関東、九州	4, 8
						米、野菜、青果物	東北、中国	4, 8
	金属製品	1	5	12	2	建築用金属製品	関東、北陸信越、近畿	4, 8
	機械	2	6	12		産業機械、電気機械、機械部品	関東、北陸信越、中部、近畿、中国	4, 8
	化学工業品	1	9	11	1	窯業製品、化学薬品、塗料、合成樹脂	関東、北陸信越、中部、近畿、中国	4, 7, 8
	繊維工業品	2	6	13	1	糸、織物	関東、北陸信越	4, 8
							関東	4
食料工業品		8	11	2	加工食品、飲料	東北、関東、北陸信越	4, 7, 8	
					製造食品	関東	2, 5	
日用品	2	15	4		一般貨物、身廻品、日用雑貨	全国	4, 5, 7, 8	
その他	2	6	10	2	宅配貨物、百貨店配送品	全国	2, 4, 8	
						関東		
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		3	12	2	農産品、水産品、青果物	北海道、中国	4
						野菜、青果物	東北、関東、北陸信越	10
	金属製品		1	15	4		関東、中部、近畿、九州	4, 9
							近畿	4, 7, 9
	機械	2	14	4			関東、中部、近畿	4, 7
						産業機械、機械部品、自動車部品	関東、北陸信越、近畿	4, 9
	化学工業品		2	15	5		関東	4, 5
						化学薬品、塗料、合成樹脂	関東、北陸信越、近畿	4, 7, 9
	繊維工業品	1	3	12	6		関東、北陸信越、中部	4, 9
						織物	関東	4, 5, 7, 9
食料工業品		5	11	5	加工食品、飲料	関東、四国	1, 4, 7	
					飲料	関東、北陸信越	5	
日用品	1	2	12	6	一般貨物、身廻品	関東、北陸信越	4, 5, 9	
					日用雑貨	全国	4, 5, 7, 9	
その他		6	10	4	百貨店配送品	関東、近畿	2, 4, 7, 9	
					宅配貨物	関東	2, 4, 5, 9	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 859社 / 調査対象事業者数 1,071社）の輸送量は、前年同月比101.7%、前月比107.8%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前年同月比	101.7%	100.9%	101.3%	100.1%	104.4%	102.4%	98.5%	104.3%	99.8%	103.1%	108.9%
前月比	107.8%	109.8%	106.5%	109.4%	107.8%	104.0%	110.7%	108.2%	105.6%	107.8%	100.8%

(2) 地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	本月の輸送は、収穫期に入ったことによる「農産物」、鮭やイカ漁等による「水産品」、土木工事増加による「砂利・砂・石材」等、台風災害に伴う「廃棄物(土砂)」の輸送の増加があったため、対前月比109.8%と増加したが、対前年同月比は100.9%とほぼ横ばいであった。今後の輸送見通しは、次月以降、精糖用ビート(てんさい)輸送が本格的に始まるため、上昇傾向にあると予想される。
東北	本月の輸送は、農作物が収穫期に入ったこと、夏期休暇の影響により減少していた輸送量が平月並に戻ったこと等から輸送量が増加した。このため、対前月比は106.5%、対前年同月比は101.3%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに上昇傾向にある。
関東	本月の輸送は、前月の夏期休暇の終了によりトラックの稼働日数が増加したこと、農作物の収穫に当たったこと、また決算期による需要増もあり、対前月比は109.4%となった。また、対前年同月比は100.1%とほぼ横ばいであった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向にある。
北陸信越	本月の輸送は、冷夏の影響で「穀物」の輸送減が見られたが、全体的には前月の夏期休暇による稼働率減少の反動もあり、対前月比は107.8%とプラスとなった。品目別では、土木工事等の増加により「砂利・砂・石材」「セメント」等の輸送が伸びた。また、対前年同月比は104.4%であった。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は増加傾向にあると思われる。
中部	本月の輸送は、夏休み(盆休み)による稼働日数が平常月に戻ったことで増加している。品目別では、来年用の雑具(「日用品」)の輸送量の増加、自動車や携帯電話関係(「機械」)の輸送量の増加があった。これにより、対前月比は104.0%、対前年同月比は102.4%の増加となっている。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向にある。
近畿	本月の輸送は、前月と比較し、稼働日数が増加したこと、また、本月に決算期を迎える企業の駆け込み需要も見られ、全体的に輸送量は増加しており、対前月比110.7%となったが、対前年同月比は98.5%と引き続き、下回った。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともにほぼ横ばいと思われる。
中国	本月の輸送は、前月までの冷夏や盆休みの影響で減少傾向にあった輸送が、概ね増加した。企業の間接決算時期や「穀物」の収穫期等、季節的なものが目立ち、対前月比は108.2%、対前年同月比は104.3%となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも横ばいと考えられるが、冷夏等による農作物の輸送量の影響が出る可能性がある。
四国	本月の輸送は、前月の盆休みにより減少した輸送量が回復してきている。季節的需要により「機械」「化学肥料」「繊維工業品」が、天候回復により「食料工業品」がそれぞれ増加した。このため、対前月比は105.6%と増加したが、対前年同月比99.8%とほぼ横ばいであった。今後の見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は増加傾向にある。
九州	本月の輸送は、対前月比107.8%と、長期休暇の影響により輸送量が落ち込んだ前月と比べると全体的に増加した。特に、工事件数の増加により「砂利・砂・石材」「機械」「セメント」等、出荷時期を迎えた「野菜・果物」、秋向け製品の出荷開始により「食料工業品」の増加があり、対前年同月比も103.1%と増加であった。今後の輸送の見通しは、次月及び以降ともに増加傾向にある。
沖縄	本月の輸送は、先島地方(宮古島)の台風被害の影響で、同方面への「取り合わせ品」の輸送需要の増加、また建築資材用の「金属製品」の輸送需要も増加した。一方で、葉煙草等の「その他の農産品」の輸送需要が減少したことにより、対前月比100.8%、対前年同月比108.9%となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに上昇傾向にあるものと思われる。

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりとまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	2	3	0	1	1	0	3	0	2	0	12
	減	2	2	0	1	0	0	0	0	1	0	6
2. 野菜・果物	増	5	4	2	3	0	0	0	0	4	1	19
	減	0	4	1	1	0	1	0	0	5	0	12
3. その他の農産品	増	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	5
	減	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	3
4. 畜産品	増	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3
5. 水産品	増	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6. 木材	増	5	0	0	0	1	0	1	1	2	0	10
	減	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	5
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
	減	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
9. 金属鉱物	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10. 砂利・砂・石材	増	11	4	0	4	2	0	5	1	5	0	32
	減	2	2	0	1	0	0	2	1	3	0	11
11. 工業用非金属鉱物	増	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	5
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
12. 鉄鋼	増	1	0	1	1	1	1	3	0	0	0	8
	減	1	2	1	2	0	1	0	1	0	0	8
13. 非鉄金属	増	0	2	0	2	0	0	1	0	2	0	7
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3
14. 金属製品	増	1	1	2	2	1	2	1	0	1	1	12
	減	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
15. 機械	増	1	1	1	0	3	1	1	1	5	1	15
	減	0	1	2	2	1	0	1	0	0	0	7
16. セメント	増	3	5	0	3	2	0	2	1	4	0	20
	減	1	1	0	1	0	0	0	0	2	0	5
17. その他の窯業品	増	1	2	0	0	1	0	2	0	1	0	7
	減	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2

品 目		運 輸 局										
		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18. 揮 発 油	増	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
19. そ の 他 の 石 油 製 品	増	0	2	0	2	1	1	0	0	1	0	7
	減	0	1	0	1	0	3	2	1	0	0	8
20. コ ー ク ス ・ そ の 他 の 石 炭 製 品	増	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
21. 化 学 薬 品	増	0	1	0	1	0	0	0	0	4	0	6
	減	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
22. 化 学 肥 料	増	0	2	0	0	0	0	0	1	2	0	5
	減	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
23. そ の 他 の 化 学 工 業 品	増	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24. 紙 ・ パ ル プ	増	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	4
	減	1	0	1	2	0	0	1	1	2	0	8
25. 織 維 工 業 品	増	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	3
	減	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
26. 食 料 工 業 品	増	1	4	2	0	2	2	0	2	4	1	18
	減	1	5	1	0	0	0	0	1	6	0	14
27. 日 用 品	増	4	2	1	0	2	4	1	1	4	0	19
	減	1	1	2	0	2	1	1	1	1	0	10
28. そ の 他 の 製 造 工 業 品	増	0	1	1	0	0	0	1	0	3	0	6
	減	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	3
29. 金 属 く ず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30. そ の 他 の く ず も の	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動 植 物 性 飼 ・ 肥 料	増	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	4
	減	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
32. 廃 棄 物	増	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4
	減	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	4
33. 輸 送 用 容 器	増	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34. 取 り 合 せ 品	増	0	1	1	1	0	0	1	0	1	2	7
	減	0	0	0	0	0	0	1	0	5	1	7
35. そ の 他	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	3